

国道10号 土砂流入

・鹿児島県始良市日木山地区において、8月7日からの大雨により、土砂流入が発生。現地状況の詳細な把握及び応急対策等の検討のため、TEC-FORCEアドバイザーを派遣し現地調査及び助言等をいただいた。

参加者:鹿児島大学 ^{いむら}井村准教授

●TEC-FORCEアドバイザーによる現地診断(令和7年8月8, 10, 12日)

被災状況



応急復旧状況



現地確認



井村准教授

【TEC-FORCEアドバイザーの見解】

- ・崩壊地からの流水は国道へ垂れ流しになるため、既設擁壁天端の背面に排水路を設置すること。
- ・崩土が国道へ流出するおそれがあるため、通行止めから片行に切り替えるには、仮設防護柵工を設置すること。
- ・高エネルギー落石防護柵工は大量の土砂を捕捉したことにより、ワイヤーが伸びきっているため、次に崩壊が発生した時に100%の効果を発揮できないと思われる。
- ・土砂については熱水変質、酸素と反応して酸性になっている。酸性の対策を検討した方がいい。
- ・出ている水のpHを測っておくこと。